

尻屋地先磯根資源調査 (要約)

三戸芳典・山内弘子・木村 大

調 査 目 的

青森県尻屋地先の磯根資源状態を把握し、漁場管理の資料とする。
なお、詳細については、「平成10年度尻屋地先磯根資源調査結果報告書」として報告した。

調 査 方 法

平成10年6月18日に、水深別に合計61点をスキューバー潜水により杵取り調査を行った。採取された生物毎に湿重量を測定し、このうち個体分けが可能なものについては個体数を計数した。

結 果

(1) エゾアワビ

平均生息数は、去年の0.8個/㎡から1.0個/㎡とわずかに増え、採取点数でも去年の9地点から14点に増えたが、資源水準は依然として低い状態にある。

(2) キタムラサキウニ

キタムラサキウニの平均生息密度は3.0個/㎡と去年の2倍に増え、特に藤石崎沖水深10mでは15.5個/㎡と非常に高い生息数であった。

水深別の平均生息密度は、5～15mに多く生息していた。去年は水深が深いほど生息密度が高くなる傾向が見られたが、今年はそのような傾向は見られていない。

キタムラサキウニの生殖腺指数(身入り)は、例年通り、水深が浅いほど指数は高くなり、水深10m以浅に生息するキタムラサキウニであれば身入りは15%以上あり漁獲可能である。

キタムラサキウニの殻径組成は、15mまでは深くなるにつれて大型のウニが多い傾向にあった。しかし、水深20mでは15m以浅までのような傾向が見られない。

(3) マコンブ

① 2年生マコンブ

2年生マコンブは61調査点中8点から採取し、その生育密度は非常に低い結果であった。また、平均生育密度は、去年の1/3程度であった。過去の生育密度から見て、平成10年度の2年生マコンブは不漁と思われる。

② 1年生マコンブ

1年生マコンブは、岸島沖水深5～10mに生育密度の高い調査点が見られた。全調査点中34点から採取し、平均生育密度は去年の7倍近い71.3本/㎡であった。

1年生マコンブと翌年の2年生マコンブの生育密度の間には比較的高い相関が見られることから、今年の1年生マコンブの生育密度からすると、平成11年の2年生マコンブの生育密度は今年の2倍程度になるものと推定される。